

## Bizワザ 引っ越し準備 3週間は必要 料金、サイトで比較

2019/1/29付 | 日本経済新聞 夕刊

年度末に転勤が決まったビジネスパーソンを悩ませるのが引っ越しだ。周到に準備してスムーズに済ませたいが、引き継ぎなどで仕事が忙しくなり、思うように進まないことも多い。手際よく事を運ぶためのポイントを探った。

「仕事をしながら引っ越し準備の時間を取るのが大変。何から手を着けていいかわからない」。3月上旬に引っ越しを控える、都内在住の高井翔平さん（25）はカレンダーを見ながら不安を募らせる。引っ越し業者の手配から荷造りまでやることは多いが、準備はつつい後回しに。「たんに詰め込んだ荷物を分類するのが面倒」と様々な手間を考えると気が重くなる。

「準備は3週間前をめどに始めるといい」。日本通運引越営業部次長の安納敏彦さんは引っ越し日から逆算してこうアドバイスする。

まず引っ越し業者の選定だ。会社の法人契約で業者が決まっている場合を除き、3週間前には複数の業者に見積もりを頼む。引っ越し予約は作業日に近づくほど料金が高くなる。新居の間取りや荷物の量などが分かれば早めに見積もりを依頼し、1社に絞る。

特に年度末の繁忙期には予約が取りづらい。全日本トラック協会が公開した「引越混雑予想カレンダー」によると、2019年は3月23日～4月7日が特に混む見通しという。可能ならば、最繁忙期を避けた方が料金も安くなる。

最近では料金比較サイトを通じて業者を決める人も多い。エイチーム引越し侍（名古屋市）や不動産のライフグループなどがサイトを運営する。エイチーム引越し侍は全国270業者と提携しており、引っ越し先の住所や荷物の個数を入力すると、業者に見積もりの作成を依頼できる。熊沢博之社長は「引っ越し料金は変わるもの。各社の料金やサービスを比べて、自分にあった業者を見つけることが大切」と話す。

業者を決めたら2週間前には荷物の箱詰めを始める。荷造りの進め方のポイントは大きく2つ。まず、普段使わない荷物から詰め、使用頻度が高い衣服や雑貨は最後まで残す。一度詰めた荷物を再び引っ張り出したりすれば、部屋は片付かない。もう一つは引っ越し先の間取りを想定して荷造りをする事だ。何をどこに置くか考えて進めると、到着後の作業が楽になる。



3月下旬～4月上旬の最繁忙期を避けて引っ越しすると安い



荷物を詰める際、われものや壊れやすい品は丁寧に梱包する。サカイ引越センターの担当者は食器について「包装紙で1枚ずつくるみ、皿やグラスは立てた状態で段ボールに入れるといい」と話す。隙間ができたときは、緩衝材として段ボールなどを入れる。

荷造りが進むと、部屋の中に段ボールが積み上がる。日通の安納さんによると「4箱以上積むと、一番下の箱がつぶれたり、崩れやすくなったりする」。1つの箱に入れる荷物の量にも注意したい。段ボールの底が抜けるのを防ぐために重い荷物は小さい箱に入れ、箱の容量の6～7割に抑えて詰める。

女性や高齢者が段ボールを運ぶときは、あえて軽い箱を重い箱の下にすると、重心が安定して持ち上げやすくなるという。腰などに負担をかけないために持ち上げる体勢も重要だ。しゃがんだ姿勢で箱を持ち、背筋を伸ばして立ち上がるよう心がけたい。サカイ引越センターの担当者によると「腕力ではなく、足全体で持ち上げる」イメージだ。

冷蔵庫の水抜きや、万が一に備えてパソコン内のデータのバックアップも当日までに済ませておこう。

早期に着手し、毎日少しずつ準備し、大事な荷物や自分の体調にもトラブルがないよう細心の注意を払うことが重要といえそうだ。仕事で大切なプロジェクトを仕切っているつもりで進めると良いかもしれない。

(長尾里穂)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.